

概 況

1 結城市の沿革

本市は鬼怒川、田川沿岸の結城台地に位置し、旧石器時代から人々の生活した痕跡があり、古くから開けた豊かな土地でした。上古(奈良・天平)から総(ふさ=総は麻の転)や穀(ゆう=木綿)の産地として総の国(ふさのくに)「ゆうき」と呼ばれ、市内に現存する数多くの古墳や出土品、遺跡等から、当時の繁栄をうかがい知ることができます。

大化の改新以後、全国的に律令制度が整備され、総の国は、上・下に分かれ、下総の国の一部として結城郡が成立したと伝えられています。結城郡の郡庁舎は、上山川地区の結城廃寺跡周辺であったと想定されており、この地域の中心として栄えました。

鎌倉時代には結城朝光が結城郡を与えられ、以来結城家歴代の城下町でしたが、関ヶ原の合戦後、結城秀康は越前に転封を命ぜられ、幕府の直轄地等となりました。その後ほぼ100年にわたり商人たちが比較的自由に活動し、水運の便の良さといまって北関東の要所として発展しました。また、この頃古くからおこなわれていた織物技術のさらなる改良により、結城紬(常陸紬)の特産地として知名度を高めました。当地方で織られる「本場結城紬」は「地機(じばた)」という我が国最古の織機を使って生産され、昭和31年に国の重要無形文化財に指定されており、平成22年にはユネスコ無形文化遺産にも指定された大変貴重な伝統工芸品です。

江戸時代半ばには結城水野家の城下町となり、結城紬をはじめ各種農産物の集散地としてさらに商圈が拡大しました。今でも市内には神社・寺院等が点在し、市街地の道路は曲折しており、町並みには見世蔵等もみられ城下町のなごりを残しています。

明治時代の廃藩置県により茨城県の町村となり、明治22年には国鉄水戸線が開通、明治40年には県内で初めて電話が開通するなど、近代化が進みました。第二次世界大戦後の昭和29年に、結城紬をはじめ農産物の生産を主とした生活圏を同じくする絹川村・上山川村・山川村・江川村の南部4か村が結城町と合併し、市制を施行しました。

近年では、少子高齢・人口減少社会の到来により、介護や子育て支援施策の充実を図り、将来に向けての持続可能なまちづくりを進めるとともに、市としての魅力、知名度を高めるためのシティプロモーション活動を積極的に行っています。また、平成26年10月に隣接する栃木県小山市との友好都市盟約を締結し、平成28年4月には栃木県小山市・下野市・野木町と定住自立圏を形成し、本市のさらなる発展と、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めています。

2 位置と地勢

本市は、市域の北端の市街地に中世城下町の名残をとどめる数少ない都市であり、市域の南部は農業地域になっています。また本市は、おおむね平坦で関東ローム層に覆われており、利根川の支流である鬼怒川・田川と西仁連川の河川に挟まれた、常総台地の一つである「結城台地」と呼ばれる海拔20～40メートルの標高を持つ比較的高いゆるやかな低稜傾斜地帯です。

農業地域は、鬼怒川流域で最も安定した肥沃な沖積層の水田地帯と、洪積層の畑地にわかれます。古くから農業が盛んで、関東平野のなかでも比較的安定した農業地域であり、米穀はもとより、首都圏の生鮮野菜供給地として、白菜・レタス・トマトなどの露地野菜等多くの農産物が生産されています。

面積	65.76km ²
延長	東西約 6.7 km 南北約 13.6 km
緯経度	結城市役所(茨城県結城市中央町二丁目3番地) 北緯 36° 17′ 23″ 東経 139° 52′ 17″

(令和4年1月13日時点 国土地理院データ)

3 結城市のあゆみ

年 月	あ ゆ み
昭和 29 年 3 月	結城町・絹川村・上山川村・山川村・江川村が合併し結城市誕生(県下 6 番目) 東結城駅、小田林駅開業
31 年 3 月	結城紬(平織)が文部省指定、重要無形文化財となる
32 年 12 月	斎藤茂一郎氏、初の名誉市民に顕彰される
34 年	国民健康保険制度開始
35 年 10 月	国民年金制度開始
12 月	鬼怒川大橋の開通
36 年 4 月	(財)重要無形文化財結城紬保存会発足
39 年 11 月	市制 10 周年記念行事
40 年 4 月	上水道給水開始
43 年 10 月	「交通安全都市」宣言
44 年 5 月	都市計画、用途地域の指定発効
47 年 4 月	結城市史編さん事業に着手
49 年 9 月	市制 20 周年記念行事
10 月	第 29 回秋季国民体育大会、フェンシング会場 天皇、皇后両陛下下行幸啓
53 年 11 月	公共下水道一部供用開始
54 年 11 月	武道館の完成
55 年 8 月	人口 50,000 人となる
11 月	市民憲章制定 市の木(桑)、市の花(ゆり)、制定
56 年	伝統産業都市モデル地区指定
57 年 9 月	山川文化会館開設
58 年 7 月	山形県長井市と姉妹都市締結
59 年 4 月	伝統工芸展示館竣工
11 月	市制 30 周年記念行事 結城市民の歌誕生
63 年 9 月	かわきやばし開通
平成元年 1 月	天皇陛下崩御(昭和 64 年 1 月)
2 月	大喪の礼
3 年 6 月	市民文化センター(アクロス)完成
7 月	紬のふる里「歴史の道」まちづくりグリーンリボン賞を受賞
4 年 4 月	新 4 号国道全線開通(市内小田林～三和町上片田)
5 年 5 月	鬼怒川水管橋完成(霞ヶ浦用水事業)
6 年 3 月	友愛メルヘン橋完成
6 月	「友愛メルヘン橋」まちづくりグリーンリボン賞を受賞
10 月	市制 40 周年記念行事
7 年 3 月	筑西地方拠点都市地域に指定される
8 年 3 月	南部中央公園(けやき公園)完成
10 月	ベルギー王国・メッヘレン市と国際親善姉妹都市締結
9 年 6 月	鹿窪総合体育館竣工式
2 月	鹿窪運動公園人工芝野球場完成
11 年 3 月	結城駅北口広場完成
11 月	市制 45 周年記念行事
12 年 3 月	結城駅南口広場完成

(つづき)

年 月		あ ゆ み
平成 12 年	4 月	介護保険制度開始
	3 月	大木庫氏、新川和江氏、多田富雄氏、名誉市民に顕彰される 結城市障害者福祉センター完成 鹿窪運動公園「水のふれあい」広場完成
13 年	9 月	「結城市環境方針」制定
14 年	2 月	ISO14001 の認証取得
	3 月	結城市消費生活センター開設
15 年	4 月	福井県福井市と友好都市締結
	7 月	国道 50 号結城バイパス全線開通
	5 月	結城観光物産館開館
16 年	5 月	市制 50 周年記念行事 結城市民情報センター・ゆうき図書館開館
	6 月	高齢者はつつ交流サロン(白銀町)開設 結城市子育て支援センター開設
18 年	11 月	生きがいふれあいセンター開設(旧かなくぼいこいの家)
19 年	9 月	新学校給食センター供用開始
20 年	3 月	市立玉岡幼稚園閉園
22 年	11 月	ユネスコ無形文化遺産に結城紬が登録される
23 年	3 月	東日本大震災発生
24 年	3 月	マスコットキャラクター「まゆげった」誕生
	11 月	タイ王国メーサイ市と国際親善姉妹都市締結
25 年	4 月	市民活動支援センター開設
26 年	5 月	結城蔵美館開館
	10 月	小山市と友好都市締結 紬の里結城パークゴルフ場開場
	11 月	市制 60 周年記念行事
27 年	6 月	県道矢畑横倉新田線バイパス開通
	9 月	関東東北豪雨による浸水被害
28 年	3 月	結城市人口ビジョン策定、結城市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定 白鷗大学と包括連携協定締結
	4 月	定住自立圏の形成に関する協定締結(小山市・下野市・野木町・結城市)
	6 月	結城蔵美館「まちづくり功労者国土交通大臣表彰」を受賞
	10 月	天皇、皇后両陛下下行幸啓・ベルギー国王、王妃両陛下来結
	11 月	結城市公民館・勤労青少年ホーム閉館
29 年	4 月	防災行政無線市内全域運用開始
	11 月	タイ王国メーサイ市へ国際親善姉妹都市盟約 5 周年記念市民訪問団派遣
30 年	4 月	国民健康保険制度改革(国保広域化)
	5 月	結城市立公民館開館
	12 月	結城市新庁舎建設工事着工
令和元年	10 月	第 74 回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」開催、バレーボール(少年女子)会場
2 年	10 月	結城市市内巡回バス民間委託開始
	11 月	結城市新庁舎開庁
	11 月	結城紬ユネスコ無形文化遺産登録 10 周年記念事業
3 年	7 月	新型コロナワクチン接種開始
4 年	1 月	結城市郷土かるた「結城王」完成

4 気象概況

(1) 地上気象観測年別気象表

年	平均気温	最高気温	最低気温	平均風速	最大風速	風 向	降 水 量	日照時間
	°C	°C	°C	m/s	m/s			
平成 22 年	14.7	37.0	△7.3	2.4	15.8	西北西	1,292.5	2,017.2
23 年	14.2	36.1	△9.5	2.4	19.6	南	1,135.0	2,137.2
24 年	13.8	36.1	△9.4	2.5	19.3	南	1,035.5	2,168.7
25 年	14.2	36.7	△8.8	2.4	16.4	北	1,196.0	2,241.7
26 年	13.9	36.2	△10.0	2.3	14.2	西	1,317.5	2,229.4
27 年	14.7	36.4	△6.6	2.3	16.7	西北西	1,250.5	2,072.7
28 年	14.6	36.7	△7.6	2.2	15.8	西南西	1,213.0	1,988.1
29 年	14.0	35.2	△8.5	2.4	14.8	北西	1,176.5	2,136.6
30 年	15.0	37.7	△9.6	2.4	18.9	南東	1,148.5	2,156.3
令和元年	14.8	37.1	△7.9	2.3	15.6	北	1,308.0	2,033.2
2 年	14.9	37.3	△7.6	2.3	15.3	西北西	1,270.0	2,008.7
3 年	14.8	35.1	△9.1	2.3	15.9	北西	1,258.0	1,793.6]

注)表中の]は、統計を行う対象資料が許容範囲を超えて欠けている値(資料不足値)を表します。

値そのものを信用することはできず、通常は上位の統計に用いませんが、極値、合計、度数等の統計ではその値以上(以下)であることが確実である、といった性質を利用して統計に利用できる場合があります。

資料:「気象庁HP(下館観測地点)」

(2) 地上気象観測月別気象表(令和3年)

月	平均気温	最高気温	最低気温	平均風速	最大風速	風 向	降 水 量	日照時間
	°C	°C	°C	m/s	m/s			
1 月	2.8)	16.0)	△9.1)	2.3)	15.2)	西北西	20.5	181.5)
2 月	5.7)	22.4)	△5.7)	2.9)	15.9)	北西	37.5	229.4)
3 月	10.6	22.8	△2.9	2.6	12.5	南	117.0	188.4)
4 月	13.3	25.6	1.8	2.9	11.2	西	90.5	226.2
5 月	18.4	28.5	6.6	2.4	11.9	南南西	87.0	153.6
6 月	22.0	29.9	14.3	2.3	8.5	南南東	89.0	145.0
7 月	25.1	34.9	19.2	1.7	11.4	西北西	192.0	175.2
8 月	26.2	35.1	17.6	2.4	11.5	南	230.0	181.6
9 月	21.2	30.8	14.1	2.1	8.2	南南東	96.0	115.7
10 月	16.6	29.5	2.5	2.0	12.3	北	139.5	176.3
11 月	11.1	21.3	△2.7	1.9	9.5	西	46.0	213.9
12 月	5.1	17.6	△6.6	2.4	11.8	西北西	113.0	217.7

注)表中の) は、統計を行う対象資料が許容範囲で欠けていますが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値(資料が欠けていない)と同等に扱う値(準正常値)を表します。

必要な資料数は、要素または現象、統計方法により若干異なりますが、全体数の 80%を基準とします。

資料:「気象庁HP(下館観測地点)」